

平成9年度理学部名誉教授懇談会開催される

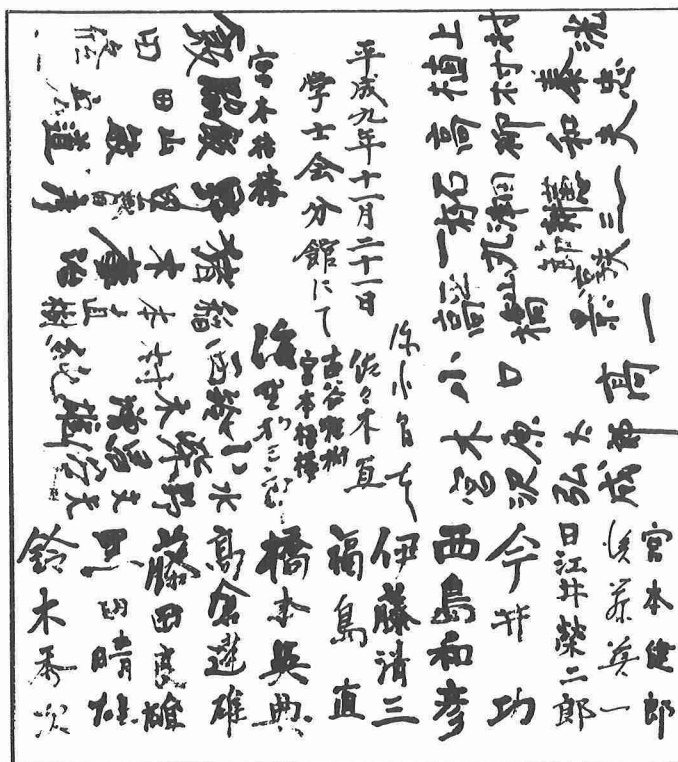
11月21日(金)午後5時から、赤門脇の学士会分館において、恒例の理学部名誉教授懇談会が開催された。

今年度は、38名の名誉教授がご出席され、理学部からは、壽榮松学部長、小間、黒岩両評議員、益田前学部長、小林事務長が出席した。

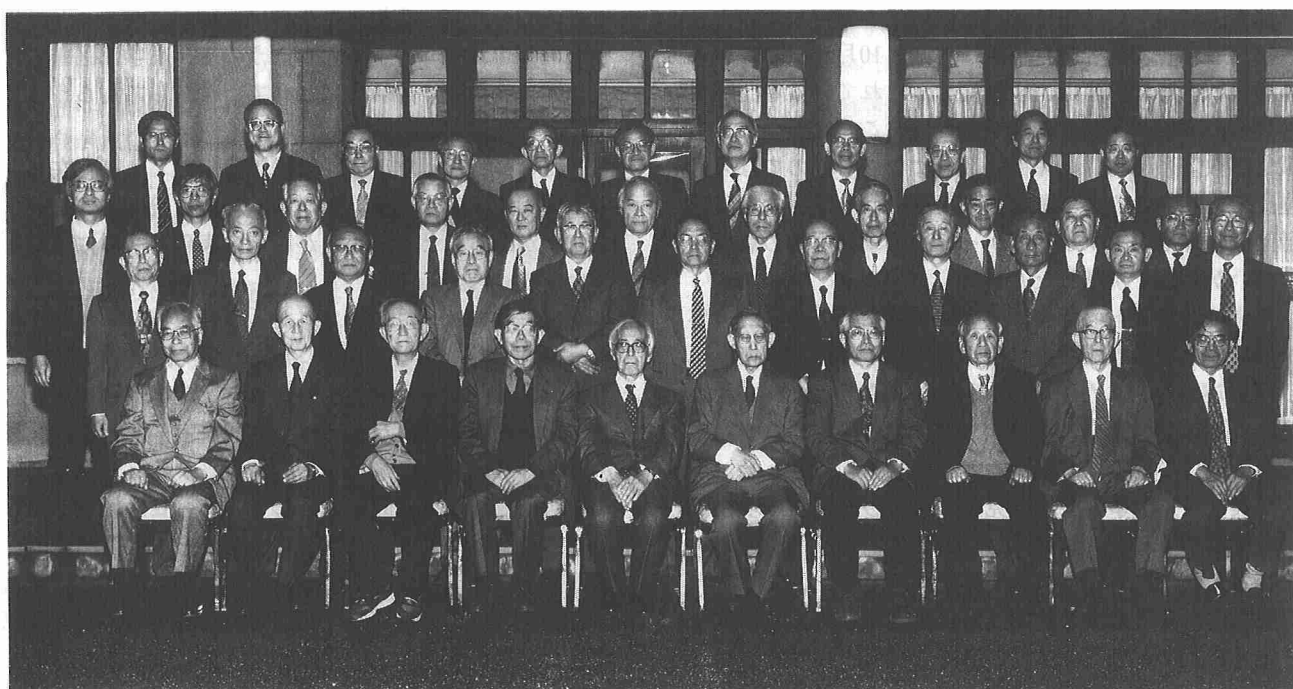
懇談会は壽榮松学部長の挨拶並びに理学部の近況報告で始まり、中庭での記念撮影の後、物理学専攻の佐藤彦教授による「インフレーション理論と最近の観測」と題した講演が行われた。

引き続き、懇談に入り、恒例により最長老の彌永昌吉名誉教授のご発声による乾杯の後、ご出席の名誉教授全員から、現在のご活躍の様子、思い出話等、ユーモア溢れるお話が続き、終始なごやかな雰囲気にもまれ会が進行した。

最後に壽榮松学部長から閉会の挨拶があり、午後8時30分に散会となった。



東京大学理学部名誉教授懇談会
平成9年11月21日 於・学士会分館



東京大学理学部名誉教授懇談会 平成9年11月21日 於・学士会分館

理学系研究科長（理学部長）と理学部職員組合との交渉

1997年9月16日、10月20日に壽榮松研究科長、小林事務長と理学部職員組合（理職）との間で定例研究科長交渉が行われた。主な内容は以下の通りである。

1. 教室系事務職員の組織化問題および昇任・昇格について

7月16日の教授会で、教室系事務組織検討委員会の教室系事務組織化案が承認され、7月23日に第2回教室系事務職員、図書職員組織化説明会が開かれた。それによると、教室系事務は平成10年4月1日から事務主任を掛長に振り替えて、組織図上は5掛制でスタートする事になるが、あくまで業務は現状通り行うとのことであった。

9月の交渉で、研究科長は今後「特別委員会（仮称）」を設置し、各専攻から教官1名、施設から代表、事務側から事務長、事務長補佐、その他案件によって掛長クラスをメンバーとし、教室事務と中央事務とのスムーズな運用、OA化関係中心の業務内容分担等を検討したいと述べた。

理職は今回の組織化と全国的な事務の一元化の動きとの関係を質問したところ、科長は東大は組織が大きく、事務の一元化は現実的でないこと、事務長会議で「事務機構改革会議」が設置され、ワーキンググループで議論もされているが、学部内でできるものは先導的にやっていきたいと回答した。

理職は、事務の6級昇格の該当者について当局の努力を求め、11月に98年4月の昇任候補者上申をする際、掛主任の上申について時期を逸さないよう要望した。

10月の交渉で、理職は科長に対し、10月7日の理職と事務長との懇談の席上、組織図で示されている専門職員ポストの新設が困難との説明を受けたことについて、組織化が教室系事務職員の待遇改善にならないのでは公約違反であり、この2年間本部人事課に対して、4級高位号俸者の昇格要求すらしなかったのは事務当局の怠慢ではないかと強く抗議した。

科長は、ポストの新設は人事課長に話してあるが、事務長補佐と6級専門職員は概算要求事項なので当初は難しいと述べた。また、『理学部から組織化について話は聞いているが、正式な要求は出ていない。』という人事課の認識については調査すると回答した。

科長は、大学事務全体の見直しが言われている現在、組織化はタイミングが悪くなってきていることを認め、流れの先取りに対して検討する姿勢を見せた。

理職は、6月に出された「事務改善ワーキンググループ報告書」でも専門職体制の方向を打ち出していることを指摘し、11月の本部人事課とのヒアリングに事務主任と事務室主任を専門職員に振り替える要求を正式に出すよう求めたところ、科長は検討すると答えた（理職は当日この問題と高位号俸者の昇格改善に関して要望書を提

出した）。

2. 図書職員の組織化問題および昇任・昇格について

7月23日の第2回教室系事務職員・図書職員組織化説明会において、研究科長はこの3年近くに亘って論議されてきた事務長提案の図書職員の組織化案が、概算要求事項であったため、平成10年4月実施は困難と判明したと述べた。

9月の交渉で、理職は図書職員の今後の組織化について質問した所、科長は、本部人事課の話として、図書職員15名のまとまりだけでは数が少ないこと、組織の大ききでポジションを決定するので、最終的に5掛の実現は難しいこと、を述べた。今後の方針として、

- 1) 5掛を減らして2～3の掛長ポストを要求する、
- 2) 5掛の教室事務組織に図書職員をくっつける、
- 3) 技術官のように、図書職員を全く違う職制の組織とする、

等が考えられるが、今のところ、具体的見通しはないと述べた。

10月の交渉で、理職は科長に対し、10月7日の事務長との懇談の席上、図書職員の組織化が全く白紙になったとの説明を受けたことについて、白紙は無責任であると抗議し、今後の処遇改善計画を示すよう要求した。

科長は白紙になったのではなく、人事課との話は継続して行っていると述べ、自分としては、教室事務と図書と一緒にするより、図書だけの組織化を行った方がよいと考えているが、5掛より少ない掛編成にすることは現状との乖離が大きいようにも思うので、理学部図書委員長に図書委員会でも組織化について、検討してもらうよう依頼したと述べた。

また科長は、理学部図書館構想は厳然として存在し、この構想の下に図書職員を一つの組織に統一するという方法論があることを認めたが、その実現が簡単には行かないと述べた。

次に、理職は6月に出された「事務改善ワーキンググループ報告書」の43Pの、「今後の学内図書館（室）の業務処理体制の概念図」に書かれた、理学部の10専攻図書室を「図書系職員が2名以下の図書室」と定義し、利用者サービス（窓口業務）だけを担当すると表現している箇所に対し、専攻図書室としてのサービス低下は明らかであり、極めて大きな問題があること、図書関係の専門部会から理学部の図書職員が省かれていることに嚴重に抗議すべきだと指摘したが、科長は問題がある事は認めたものの、「今後の... 概念図」のように決まることはないだろうとの見通しを述べた。

理職は組織化の目的は第一に待遇改善であり、組織はいかにあろうとも、図書職員の待遇改善の方策を講じるように要求した（理職は当日図書職員の高位号俸者の昇

格改善要望書を提出した)。

3. 技術職員の昇級・昇格と専行職問題について

9月の交渉で、事務当局より8月に昨年(1996年)度の技術職の7級昇格が1名来たことが報告された。遅れた理由は、文部省の方で遅かったと聞いているだけで不明とのことであった。

当局は今年度分の6, 7, 8級については、6級は12月、7, 8級は来年の1月頃であり、職場からの推薦が出ている者は全て本部に上申していると述べた。

10月の交渉で、理職は国大協総会が11月12, 13日に開催される際、文部省と第4常置委員会で検討されてきた、技術職員の専行職問題の最終案が提案されることについて、総長サイドからの情報の有無を質問したが、科長はまだ何も聞いていないと述べた。

また、理職は理学部技術部組織規定および運用規程を改定する場合は、技術委員会の委員若干名と技術部から選出された委員若干名で構成する専門委員会で検討することに規定されており、現在の組織を見直す場合はその規程に準拠してほしい旨要望し、科長も了解した。

4. 特昇問題について

9月の交渉で、理職が1997年度の特昇について質問し、10月給与で7月1日付けにより、役職3名、一般11名、来年度定年1名に発令されることがわかった。なお、今年度から新設された、教官の研究活動の活性化の観点から設けられた別枠(2%以内)の特昇については、まだ来ていないとのことであった。

10月の交渉で、理職は一般職の職員の特昇は年度56歳の人ではできないと言われていることについて質問し、以下のことが判明した。

技術職員、ポストについていない図書職員と事務職員の特昇は一般職の特昇基準(理学部規定)で決め、人事委員会が承認する。満34年在職(含む日々雇用)で5回特昇する可能性があるが、その年度で56歳(4月~翌年3月)になる者は対象外になる。各教室の推薦順位は尊重するが、理学部全体で不均衡がないように配慮する。

4級以上の役付き事務職員は、本部に候補者を上げ、特昇定数をもらう。人事委員会にはかけない。特昇月に56歳になっていない者は対象となる。

5. 柏移転問題について

9月の交渉で、理職が柏移転に関してこの間の動きについて質問したところ、科長は文部省との折衝の結果、「新領域創成科学研究科(仮称)」として、平成10年4月発足、平成11年度学生受入予定の概算要求を提出したことを明らかにした。科長は、国の厳しい財政状況のため、当初予定していた6専攻の要求は認められず、先端エネルギー工学・複雑理工学・先端生命科学の3専攻のみの概算要求としたこと、また柏の土地取得もすぐには困難なため、立ちは本郷キャンパスで行い、数年以内に柏キャンパスの取得を目指していること、を説明し、

この件は8月の臨時評議会及び臨時教授会で了承されたと述べた。

理職は本郷での場所について質問し、科長は工学部と理学部で確保し、理学部は1号館の取り壊しを半分程度にとどめ、残りを新研究科に当てる予定であると回答した。

理職は厳しい財政状況下での新研究科の立ちは、例えば新1号館の2期工事などの、既存学部将来計画へも悪影響を及ぼす危険があることを指摘し、科長は2期工事としては残りの半分しか取りかかれなないなど影響が出る可能性を認めたが、新研究科を立ち上げることを最優先課題としてしていると回答した。

新研究科の事務組織について理職が質問したところ、科長は本部に一任してあり、具体的検討は予算の内示が出てからになるだろうと述べた。

10月の交渉で、理職はその後の経過を質問し、科長は10月に全学レベルでの設立準備会が設置され、1998年度に予算がつくことを想定した検討委員会などが組織し直されたと回答した。また科長は理学部から出す部分の本郷でのスペースについては、今後企画委員会で検討することを明らかにした。

事務組織について理職が質問したところ、科長は来年度以降のことは全学的問題として考えるべき課題だが、今年度中に理学部としてやらなければならない事務は理学部内で処理せざるを得ないだろうと回答した。

6. その他

9月の交渉で、理職は新1号館の2期工事に伴う理職書記局と技術部の部屋の移転先について質問したところ、科長は当初の約束通りプレハブの建物に移ると回答した。

10月の交渉で、理職は以前からの懸案事項である、理職書記局への電子メールアドレス給付について要求し、理職としては執行委員長が責任を持って管理をする旨伝えたと、科長はネットワーク関係者に相談すると回答した。

人事異動報告

(講師以上)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
地質	教授	木村 学	9.8.1	採用	
生科	〃	福田 裕穂	〃	配置換	附属植物園より
化学	助教授	澤村 正也	9.8.16	昇任	講師より
原子核	〃	久保野 茂	〃	〃	助手より
地惑	〃	和方 吉信	9.9.1	〃	九州大教授へ
鉱物	〃	バンフィールド ジリアン	9.9.13	任用更新	9.9.13~10.8.31
化学	〃	古川 行夫	9.9.15	辞職	早稲田大教授へ
物理	教授	堀田 凱樹	9.10.1	昇任	国立遺伝学研究所長へ

(併任)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理	併任教授	堀田 凱樹	9.10.1	併任	本務：国立遺伝学研究所長

(助手)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理	助手	石山 英二	9.8.1	採用	
情報	〃	千葉 滋	〃	昇任	筑波大講師へ
〃	〃	須田 礼仁	〃	〃	名古屋大講師へ
物理	〃	山田 章一	9.8.27	休職更新	9.8.27~10.2.28
化学	〃	後藤 敬	9.8.31	辞職	北里大講師へ
物理	〃	川野 輝彦	9.9.1	採用	
国際交流室	〃	五所 恵実子	〃	配置換	法学部より
植物園	〃	梶田 忠	9.9.16	採用	
物理	〃	山田 篤志	〃	休職更新	9.9.16~10.9.15
鉱物	〃	海田 博司	9.10.1	採用	

(職員)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
生科	技官	岩本 訓知	9.9.1	採用	
事務局	事務官	川田 耕二	9.10.1	配置換	経理部主計課へ 文部省体育局体育課企画係 (併)
〃	〃	平野 智巳	〃	採用	

博士（理学）学位授与者

平成9年9月22日付学位授与者（8名）

種別	専攻	申請者名	論文題目
課程博士	地球惑星物理学	河宮 未知生	北太平洋におけるクロロフィルの季節変動のメカニズム：海洋大循環モデルに組み入れた生態系モデルを用いた研究
論文博士	情報科学	田浦 健次朗	分散記憶並列計算機のための効率的で再利用可能な細粒度マルチスレッディング及びゴミ集め
〃	物理学	松岡 秀行	シリコン MOS 反転層における単一電子伝導に関する研究
〃	〃	諏訪 雄二	第一原理計算による水素結合反強誘電体 $K_3D(SO_4)_2$ の安定構造と同位体効果の研究
〃	〃	勝藤 拓郎	ペロブスカイト型チタン酸化物の金属-絶縁体転移の研究
〃	化学	前田 和之	無機有機複合ゼオライト-新規メチルホスホン酸アルミニウムの合成、結晶構造、及びキャラクタリゼーション
〃	生物科学	宮下 英明	クロロフィル d を主要色素とする新規酸素発生型光合成原核生物 <i>Acarochloris marina</i> の特性の解析
〃	〃	上園 幸史	酵母 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> の SSD1 の遺伝子機能に関する研究

平成9年9月30日付学位授与者（10名）

種別	専攻	申請者名	論文題目
課程博士	天文学	鹿野 良平	「ようこう」搭載軟X線望遠鏡による太陽コロナループの研究
〃	生物科学	美濃川 拓哉	ウニ胚における内胚葉・中胚葉誘導に関する研究
〃	〃	白濱 佳苗	酵母を用いた自食作用の分子遺伝子学的研究-構成的な自食作用を示す突然変異株の単離とその解析
〃	〃	佐藤 麻理子	大腸菌チトクロム bo 型ユビキノール酸化酸素の基質酸化部位に関する研究
〃	物理学	孫 潤光	置換ポリアセチレン及び希土類金属錯体におけるエレクトロルミネッセンス
〃	化学	李 珊瑚	レーザー二光子イオン化による対流圏NO高感度測定手法の開発
〃	〃	金 鎮烈	導電性高分子ポリアセチレンの構造に関する分光学的研究
〃	〃	ブロンズゲートデバイス	NaY ゼオライトスーパーケージ内に捕捉されたバナジウム錯体の合成と触媒特性
〃	〃	車 允煥	赤外分光を用いた導電性高分子の光誘起ダイナミクスに関する研究
〃	〃	田 旺帝	偏光全反射蛍光 XAFS 法による酸化物単結晶表面上の Mo 及び Pt 触媒活性点の非対称・異方性構造解析

平成9年10月27日付学位授与者（3名）

種別	専攻	申請者名	論文題目
課程博士	地球惑星物理学	原田 靖	プレート絶対運動、ホットスポット間の相対運動、極移動曲線に関する高精度グローバル解析
〃	化学	大西 裕季	ステロイド配糖体パボニン-1とその類縁体の合成および脂質二重膜透過性亢進作用：糖の分子内配置とその相関
論文博士	情報科学	福本文代	構文・意味的曖昧性解消のためのコーパスに基づく手法とその応用に関する研究